

3-19. NPO 法人西表島エコツーリズム協会（沖縄県八重山郡竹富町）

(1) アドバイザー派遣申請の背景

1990年代にエコツーリズムの理念をいち早く取り入れ、日本のエコツーリズムの先進地区として注目を浴びた西表島は、西表島エコツーリズム協会（以下協会）の設立から18年たった今、エコツーリズムの改革期を迎えている。この間、エコツーリズムの概念や協会の活動の地域住民への普及・啓発は容易には進まなかった。さまざまな分野の地道な活動により協会の知名度自体は上がってきているが、「エコツーリズム」という言葉に対して未だに「分かり難い」「難しい」という苦手意識を持ってしまう住民は多いようである。

昨年より、もう一度西表島のエコツーリズムの原点に戻り、地域住民の目線に立ったエコツーリズム推進体制を取っていかうという動きが出始め、その動きの第一歩として平成24年3月にアドバイザーの江崎貴久氏にお越しいただき、講演とワークショップという形でアドバイスをいただいた。参加者の多くが、エコツーリズムに関する理解を深め、地域の資源（宝）や各々の役割を再認識することができ、また、みなで将来の地域のビジョンを共有することができた。

その効果は、少しずつではあるが目に見える形で表れてきている。江崎氏の講演に感銘を受けた「西表女将の会」のメンバーは、6月に協会と協働して沖縄本島から離島体験交流に訪れた130名ほどの小学生を受け入れ、おもてなしの心を存分に発揮し、好評を得た。協会でも、これまで以上に発信の機会を増やし、活動の拠点となるセンターの有効利用と地域活性のための新たな取組として「エコ市」を始める等、住民が参加しやすい形でのエコツーリズム普及・啓発に取り組んでいる。

文化資源を活用した新たな滞在型観光プランも、すぐに商品化という段階までには至っていないが、人材育成に重点的に取り組んでおり、少しずつその仕組づくりに向けて前進している。

(2) アドバイザー派遣の概要

| | |
|-----------|---|
| 日 時 | 平成24年12月3日（月）～平成24年12月6日（木） |
| 場 所 | 沖縄県八重山郡竹富町（西表島）、沖縄県石垣市 ・視察場所：竹富町役場（石垣市）、西表島カヌー組合事務局（風車）、女将の会事務局（西表アイランドホテル）、西表島エコツーリズムセンター、他島内数ヶ所 ・講演実施会場：浦内公民館 |
| アドバイザー | 有限会社オズ 代表取締役／旅館 海月 女将 江崎 貴久 氏 |
| 参加者 | ・竹富町役場訪問／意見交換会参加者（11人） ・西表島内視察／意見交換参加者（8人） ・講演／ワークショップ参加者（講演27名／ワークショップ12名） |
| スケジュール・方法 | 【1日目】 竹富町役場視察、聞き取り調査・意見交換 【2日目】 聞き取り調査、意見交換 【3日目】 講演、ワークショップ、懇親会 |



(3) アドバイスの内容

●竹富町役場視察・意見交換会

(竹富町商工観光課職員との意見交換会)

- ・ 今回の視察・訪問の趣旨の説明と、鳥羽での取組事例の簡単な紹介。
- ・ 竹富町の入域観光客数等のデータを基に、宿泊客数を増やすことによる経済波及効果等の説明。

(竹富町町長、副町長を交えての意見交換会)

◇江崎氏のコメント

- ・ 今回の視察・訪問の趣旨の説明と、鳥羽での取組事例の簡単な紹介。
- ・ 竹富町の観光立町宣言を見る限りでは、エコツーリズムを推進しているが、町長の考えは我々と同じだと感じる。今後は、それらから具体的ビジョンが描かれ、観光基本計画等にも反映され、住民に周知されていくことを期待したい。
- ・ 行政として民間ではできない部分、まずは多様な主体が一堂に会し話し会える場、テーブルをつくっていただきたい。
- ・ エコツーリズム推進法の利用も地域資源を守るひとつの手段であることを知っていただきたい。

◇町長のコメント

- ・ 丁度観光基本計画の見直しが行われている。これまでは行動計画の部分が弱く、また評価システムが確立されていなかったのが反省点であり、次年度からの計画にはこれらを活かしたい。
- ・ 幸いにして今年度から沖縄県には一括交付金による助成があり、これを観光振興に最大限活かしたいと考えている。エコツーリズムの推進に関しても、まずは具体的な提案を住民の方からどんどん挙げてほしい。

●住民からの聞き取り調査・意見交換

- ・ それぞれが行っている活動や抱えている問題等についての聞き取りを行い、江崎氏よりアドバイスをいただいた。

◇西表島出身（移住者でない）の青年たち

- ・ まずは、個々が考えていることを他の人に聞いてもらい、広げていく、仲間を増やしていくことが大切だと思う。そしてできることから少しずつ行動に移して行ってほしい。

◇西表島カヌー組合組足長

- ・ 厳しい自主ルールを取り決めていることは評価できるが、今後その方法で本当に資源を守っていけるのか疑問を感じる。法の利用も選択肢の一つとして検討して行ってはどうだろうか？
- ・ 現在日帰りが主流のカヌーツアーは、他主体との接点があまりにも少ない（他への経済波及効果が少ない）ように見えるが、その部分に関して組合としての動きは難しいとしても、「どうにかしたい」と思っている事業者は少なからずいるのではないか？まずは小さな輪で良いので声をかけて同じ思いを持つ人を集めて行動に移して行ってほしい。

◇西表女将の会会長

- ・ 発足したばかりで、まだ動きは僅かかもしれないが、「おもてなしの心」を軸に継続してがんばってほしい。

◇西表島エコツーリズム協会会長

- ・ 協会にいろいろな動きが出てきていることは見てとれる。行政との連携が課題のようにあるが、さまざまな方面からの積極的なアプローチを続けてほしい。

●講演

- ・ 「観光から感幸へ 幸せになれる地域づくり ～島の宝を見つめなおし、分かち合い、活かし、守る～」と題して、昨年度と同様に江崎氏の三重県鳥羽市での活動や取組についてお話いただき、加えて今回は、地域におけるガイドの役割や、地域の価値を感じるマーケティングのステップ、西表島の観光客数等、具体的な数値を基にした経済波及効果の仕組等を、分かりやすくお話しいただいた。

◇住民や多様な主体の観光への参加の形

- ・ 鳥羽の離島の住民が徐々に心を開いていく様子や、子どもたちのボランティアガイドの取組を映像で紹介いただいた。

◇本来の「おもてなし」の意味

- ・ おもてなしの源は、自然、文化、地域の人々等、全てに対してのおもいやりの心であり、地域の光に地域を大切に思う心、地域や業への誇りがプラスされることによっておもてなしの心となる。

◇循環型社会の仕組づくり

- ・ 事業者が利益の追求のみに走ることなく、地域全体が潤うように、地域や資源に還元することを当然のこととして行えば、観光客、資源、住民、事業者のどれもがバランスよく幸せになれる（＝エコツーリズム）。

◇地域とお客様をつなげるコツ

- ・ 地域の人にとっても、お客様にとっても、お互いを大切にしてくれる人を、大切に思える。そのお互いの気配り、心配りをシステムとしてつなぐのがガイドの役割である。

◇地域の価値を高めるマーケティングのステップ

- ①企画（目的、メッセージ、テーマ・コンセプト、ターゲット）
- ②プロダクト（商品への落とし込み）
- ③販売に向けて（受付、広報、販売）

◇地域ぐるみで循環させ、価値を高めることの重要性

- ・ (西表島の観光客数と人口の推移データを基に) 地域の資源を守りながら住民の消費と観光収入の減少を補うためには、地域ぐるみで価値を高め、地域ぐるみで循環させていくことが重要である。そのためには観光による単価や地域への経済波及効果を上げることを考えなければいけない(日帰り客よりも宿泊客)。

●ワークショップ

- ・ 昨年度のワークショップと同様の手法で、まずは西表島の宝物さがしをし、未来の島のビジョンをグループワークの形式で考えた。続いて参加者個々の業における長所・短所の認識、そしてその長所を他の主体のためにどのように活かせるかをペアになって検証し、そこから地域協働や連携体制を取っていく上でのヒントを導き出した。

◇講演内容のふりかえり

- ・ 講演の内容をふりかえりながら、観光のビジョンや伝えたいメッセージを共有することの重要性を確認した。

◇自己紹介

- ・ それぞれの職業や活動、エコツーリズムとの関わり等の紹介をした。

◇グループワークと発表

- ・ 2グループに分かれて模造紙に記入していく形式で行った。最初に西表島の宝物を列挙し、その中から最も重要だと思うものを3つ選び1~3位まで順位付けを行った。そしてそれらが重要である理由を検証し、グループ代表者が発表した。両グループとも上位に「自然」「人」が入っており、これは前回のワークショップの際の結果とも共通していた。その後その宝物のどんな価値を伝えたいかという考察を経て、最終的に100年後の理想の島のビジョンを思い描き発表した。

◇個人ワーク

- ・ 用意されたワークシートに個々が記入する形式で行った。参加者個々の業における強み・弱み(長所・短所)を検証した。

◇ペアワーク

- ・ ランダムにペアをつくり、個人ワークで強み・弱みを記入したワークシートを交換し、今度は100年後の理想の島のビジョンのために「相手の長所が自分のどういった部分に活かされるか」また、「自分が相手の短所を補うために何ができるか」を検証し、相手のワークシートに記入した。

◇アドバイスとまとめ

- ・ 西表の観光は何を目指すのか? まずは、ビジョンや伝えたいメッセージを共有することが大切。
- ・ 地域の一人ひとりが少しずつコーディネーターの役割を担うこと、そういったバランス感覚を養うことが必要。
- ・ 連携を図っていく上で、一度に大きなつながりは難しいと思うので、まずはこのワークショップで行ったような個々の小さなつながりからつくっていき、それを積み上げていってほしい。
- ・ 観光基本計画の見直しがされていると聞いたが、この計画の中に地域の皆さんが描くビジョンとつながるものが組み込まれていないと、これまでのように形だけの計画になってしまう。計画をつくる段階から皆さんの意見が反映されるように何らかの動きをとってほしい。

(4) アドバイザー派遣の効果

●参加者や関係者に与えた効果

- ・ 参加者の業種等に関わらず、エコツーリズムの意味、定義を理解(前回から続いて参加された方には再確認)する機会となった。
- ・ 個々のお客様に対してしか向いていなかった意識が、地域全体のお客様へ向いていくようになった。
- ・ 他地域での、観光への住民や多様な主体の参加の手法が、西表島で連携体制を築いていく上でのヒントとなった。
- ・ 「小さなつながりからつくっていけば良い」というアドバイスは、参加者の心理的ハードルを低くし、「それなら自分にもできる」という自信につながった。
- ・ 意見を交わす機会が少なかった異業種間で、とても良い意見交換の場となった。またそういった場を設けることの重要性を知った。
- ・ ワークショップの手法が、今後、目的やビジョンを明確にしたり、課題・問題を解決していく際のアプローチ方法として参考になった。
- ・ 実際の西表島の統計データを基にしたの経済波及効果等の話は、ビジョンだけではなく問題意識を共有することにつながった。
- ・ 個人差はあるが、民間と行政それぞれの役割を認識できた。

●今後の期待される効果

- ・ 先ずは地域の未来のビジョンを共有するために、若者や有志が中心となって、あらゆる主体が意見交換できる場が定期的に設けられることが期待される。
- ・ 多くの地域住民によるビジョンや問題意識の共有が、観光基本計画へそれらを反映させるアクションへとつながり、行政と民間が同じ方向を向いてエコツーリズムを推進する体制が整えられることが期待される。
- ・ 地域住民や地域の多様な主体が連携して、地域の価値を高め、日帰り客を宿泊客へシフトさせるための新たな魅力づくり、そしてその受入の体制が整えられることが期待される。

(5) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

●参考となった事項

- ・ 前回の派遣時に、地域の多様な主体がさまざまな形で観光やエコツーリズムに参加し、連携が図られている鳥羽の事例を、大変参考にさせていただいた。しかし、その後それらを具体的なアクションに移していく過程に難しさを感じていた。今回の派遣では、「小さなところからのつながりづくり」の手法を、講演やワークショップを通じて学ぶことができ、誰もが簡単にアクションを起こしていけるよう心理的ハードルを下げさせていただいたことは、参加者にとって大きな収穫であったと思う。
- ・ また、行政との連携に関しても、アプローチの難しさを感じていたが、アドバイザーを交えて意見交換をしたことで、町長をはじめとする役場職員のエコツーリズムに対する関心を向上させることができ、前向きに推進体制を築いていく土台をつくれたのではないかとと思う。

●その他感想

- ・ 前回の派遣が地域住民に非常に好評であったため、今回も参加を楽しみにしていた住民が多く、また新たな参加者を得たことで共有の輪が広がっているように思う。
- ・ 今回はより具体的なアクションにつながるアドバイスをいただけたことで、「気付き」から「行動」へと次のステップに進む準備が整ったように思う。

(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

有限会社オズ 代表取締役／旅館 海月 女将 江崎 貴久 氏

●アドバイス（講義等）の概要

1) 機会と事前計画の効果

- ・ 平成 24 年 3 月に引き続き、今回訪れたことで島民の記憶とモチベーションが高い間に次の手をうつことできたのは効果的であったと思われます。
- ・ そして今回の同アドバイザー派遣を効果的にするため、事前に前回の提言やアドバイスをふまえ、具体的な打ち合わせを行ってきたことが、少ない日数を最大限生かすことにつながられたと思います。
- ・ 事務局をはじめとする皆さんの目的に向かう意識とそのプロセスの理解が功を奏し、戦略的なスケジュールを組んでいただきました。
- ・ 短期間の準備期間ではありましたが、私の訪問希望先への調整を見事に行われた事務局やそれをサポートする会長はじめ、会員の皆さんに大変感謝しております。

2) 現地調査・ヒアリングの効果と更なる課題

- ・ 前回のフィールド視察と懇親会等でエコツーリズム推進の担当者や関係者から得た情報を元に、地域課題に 1 歩踏み込んだ対象者へのヒアリングを行いました。方法としては西表島の観光を取り巻く人々を訪問し、当事者と 1 対 1 でお話する機会を得ました。
- ・ それぞれの方がエコツーリズムを推進するために抱えている個々の課題を明らかにし、可能性を探ることができました。個々の課題の分析を当事者とするこで、全体の課題解決のために、個々の果たせる役割を見出すことにつながり今後の進め方の具体的なヒントが得られました。
- ・ 前回の調査では、カヌー事業者のマネジメントについて、住民やカヌー以外の事業者との隔たりが課題であることが分かりました。そこで今回、西表島カヌー組合長の事業所を事務局と訪問し、内情を聞くことができました。
- ・ 西表島でのネイチャーツアー始動期は事業者数が少なかったため、地域の関係も密接でしたが、近年の沖縄ブームとそのライフスタイルへの人気から、移住希望者が増え生業として比較的投資額も低く独立しやすいカヌー事業者も多数に増え、結果としてカヌー組合はピナイサーラの滝の利用調整が主な組合の存在意義となっていることが当事者の話として聞くことができました。
- ・ こうした社会的な環境変化の影響や組合の体制とその成り立ち等を伺い、それらが生み出した閉鎖的な体勢のため、現状ではすぐに組合全体の意思として体勢を変えることは難しいことも分かりました。しかし、外部との連携が組合の運営方針に社会性を持たせ、個々の事業者の質を上げていくことが確信できました。
- ・ そこで、いきなり地域資源活用の課題に直面する多様な主体との意見交換の場は今後のポジショニングの中で非常にリスクな接点となってしまうと考えます。まずは、お互い助け合い思いやれる経験事業としてエコツーリズム協会等地元と一緒に地域資源を活用したイベントを提案しました。組合では共催等の明確な連携事業は無理だが、一部有志が連携し、情報発信をするといった間接的協力からなら可能であるという結論ができました。
- ・ その他、観光産業に関わる 20 代～30 代の次世代の若手にも話を聞けました。まず交通機関の第三者からの意見として、観光と農業の産業間連携の必要性とその連携は人間関係が左右していると感じていることが伺えました。その次に当事者にあたる若者リーダーにもヒアリングを行ってみたところ、これからの観光活性化の意欲は感じられるが戦略的にビジョンを持った計画にはなっていないまま始動している現状が分かりました。
- ・ 一方、先駆者として西表島農業の 6 次産業化を実践している若者は生活環境、特に教育環境の現状から子

どもが大きくなってくると共に深刻さを増し、数年後には島を離れる決意をしています。今後、持続的な発展のためには若手の体制を模索する必要があることが分かりました。同時にIターンの若者の活躍が目立っている本島では、子どもの教育環境はこれから島に若者を留まらせるための大きなハードルであり続けると思います。

3) 行政へのアプローチ効果

- ・ 前回、提言していた行政との関係づくりについても進展しました。
- ・ 環境省のアドバイザーとして事務局と会長とともに役場にも訪問し、町長、副町長、商工観光課長、画財政課長、自然環境課主事をはじめ関係担当者出席の下、意見交換と協力依頼を行いました。協議会設置と予算要求の機会について町長自らご快諾いただき、今後の運営の安定化にもつながるのではないかと考えられます。
- ・ 町長は意欲的ですが、その反面担当課長の中には明らかに消極さが見受けられる方もおられ、依然として潤沢な補助金運営における体質と竹富町役場が行政区域内にないという全国でも珍しい地理条件が行政改革の妨げになっています。こうした行政の体勢の改善も民との関わりによって変化する可能性が考えられ、事務局の外部へのアプローチも今後の運営に入れていくことをアドバイスしました。

4) 講義による効果

- ・ 前回は、皆さんにエコツーリズムについての考え方や地域のみんなで連携し協力することの具体的なイメージを付けていただきました。今回は更に新たな人々も加わっての講演とワークショップだったので、2度目の参加者は、これから自分たちがこの手法を学び広げていく意識が付いたようです。
- ・ 今後は指導者を育て、西表島の各地で少しずつ「自分たちの宝もの」について考える出張ワーキングをできるようにサポートできればと思っています。

5) 今後期待される効果

- ・ その他、地元地域の婦人会は重要な位置付けにあり、その牽引役である会長の理解が今後の西表島のエコツーリズム推進に大きな力となっていくと思われれます。
- ・ 仕組づくりに関しても、行政の参画が期待できると思われれます。事業に対する意欲や積極性の高まりは、今の西表島エコツーリズムに関わる民間に比べると緩やかなものになると予想されます。民間先行のスタイルになるのは間違いないので、そういう意味では鳥羽のスタイルを参考にしながらも、西表オリジナルの事業展開が求められると思います。

●地域に対する印象、コメント（メッセージ）

- ・ 行政との公式での関係ができた今回をふまえ、今後このきっかけをどう生かしていくのかを考える必要性があります。
- ・ まずは、行政へのアプローチを日常の運営業務に盛り込んでいただきたいと思います。行政区域内に無い役場は親近感が湧きづらいものですが、これは住民だけが感じているものではありません。当然、行政職員も同じように感じているはずで。
- ・ 物理的に現場から遠いことが、心のバリアになっていることは間違いありません。これを補うには定期的に役場を訪問し、現場のやりがいにつながる空気を少しでも役場に届け続けることです。役場から西表島に足を運びやすくする条件を整えていくと行き来が活発になると思われれます。行政との信頼関係が、島内での信頼関係も成長させていくきっかけとなります。行政に協力依頼するが、実際の活動では行政に協力・サポートする位の姿勢で向き合っていただきたいと思います。

- ・ 事務局ひとりではなく、事務局をサポートする数人で今後の展開方法を計画し共有していけば、みんなで描いたビジョンの実現が必ず可能なものとなると思います。
- ・ エコツーリズムは、観光地の心を中心になければならないものです。そのためには、エコツーリズムの考え方を理解した皆さんが地域観光のリーダーとなっただかなければ実現しません。
- ・ 理解し合い、理解し続ける場づくりの工夫のために、協議会設置、連携事業の企画、理解の仕方（目的の共有）・接点の作り方（可能性の創出）・メリットの作り方（win-win アイディア）の工夫…研修を通じて必要性を感じたことを、実現していきましょう。

